

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練士学科3年制	科目区分	基礎分野	授業の方法	実習演習
科目名	視能矯正学各論Ⅴ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	3年	学期	後期	教室名	1001
担当教員	中西 令子				
実務経験と その関連資格	視能訓練士として、総合病院で視能検査・訓練に14年間従事した。				
《授業科目における学習内容》					
生理光学の基礎を復習し、応用力を身に付け、更に臨床で活かせる思考を身につける。					
《成績評価の方法と基準》					
学期末定期試験80% 平常点(小テスト)20%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
視能学第3版 屈折異常とその矯正改定第6版 理解を深めよう視力検査屈折検査					
《授業外における学習方法》					
毎時間、主体性を持った勉強をして授業に臨んでください					
《履修に当たっての留意点》					
単なる暗記をするのではなく、機序・理論を考慮することができるよう疑問を持ちながら授業に臨んでください					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	正しく遠点・近点・明視域を求めることができる	屈折異常とその矯正 改定第6版	遠点・近点・明視域の復習	
	各コマに おける 授業予定	遠点・近点・明視域			
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	眼鏡あわせについて説明できる	屈折異常とその矯正 改定第6版	眼鏡あわせの特徴の復習	
	各コマに おける 授業予定	屈折異常とその矯正 眼鏡あわせ			
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	症例に合わせて適切な屈折矯正方法を列挙できる	屈折異常とその矯正 改定第6版	屈折矯正方法の復習	
	各コマに おける 授業予定	屈折矯正方法の種類			
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	眼鏡と弱視の関わりについて説明できる	理解を深めよう視力 検査屈折検査	小児の矯正方法の復習	
	各コマに おける 授業予定	光学と弱視の関わり 小児の眼鏡あわせ			
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	矯正効果の計算ができる	視能学第3版	矯正効果の計算復習	
	各コマに おける 授業予定	頂間距離と矯正効果の変化			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	プリズムに関連する計算ができる	視能学第3版	プリズムの復習
	各コマにおける授業予定	プリズムについて、またその各種法則		
第7回	授業を通じての到達目標	ランドルト環のサイズ・距離・視角を求めることができる	特になし	ランドルト環サイズの各計算の復習
	各コマにおける授業予定	ランドルト環のサイズ・距離・視角の関係		
第8回	授業を通じての到達目標	検影法の原理・検査方法の説明ができる	理解を深めよう視力検査屈折検査 屈折異常とその矯正	検影法の復習
	各コマにおける授業予定	検影法		
第9回	授業を通じての到達目標	角膜曲率半径と屈折異常の関係について説明できる	特になし	角膜曲率半径と屈折率の計算
	各コマにおける授業予定	角膜曲率半径と屈折異常の関わり		
第10回	授業を通じての到達目標	屈折矯正に関する国家試験過去問題を解答できる	理解を深めよう視力検査屈折検査	屈折矯正の復習
	各コマにおける授業予定	屈折矯正の手技(乱視表とクロスシリンダー)①		
第11回	授業を通じての到達目標	屈折矯正に関する国家試験過去問題を解答できる	理解を深めよう視力検査屈折検査	屈折矯正の復習
	各コマにおける授業予定	屈折矯正の手技(乱視表とクロスシリンダー)②		
第12回	授業を通じての到達目標	AC/A比を求めることができる	視能学第3版	AC/A比の復習
	各コマにおける授業予定	調節と輻湊の関係(AC/A比)		
第13回	授業を通じての到達目標	像のできる位置に関する国家試験問題を解答できる	特になし	横倍率・立体視像の位置計算の復習
	各コマにおける授業予定	像の見え方と、できる位置(横倍率、立体視検査の像)		
第14回	授業を通じての到達目標	生理光学に関する各種法則を説明できる	理解を深めよう視力検査屈折検査 屈折異常とその矯正	各種法則の復習
	各コマにおける授業予定	各種法則		
第15回	授業を通じての到達目標	国家試験過去問題を解答できる	特になし	特になし
	各コマにおける授業予定	まとめ(国家試験過去問題を用いる)		